

「ふる里の味づくり心づくし」ESD かぼちゃ農園活動

北海道北広島市立西部中学校

校長 城野 文久

担当者 丸山真嗣典

1. 本校のESDの特徴

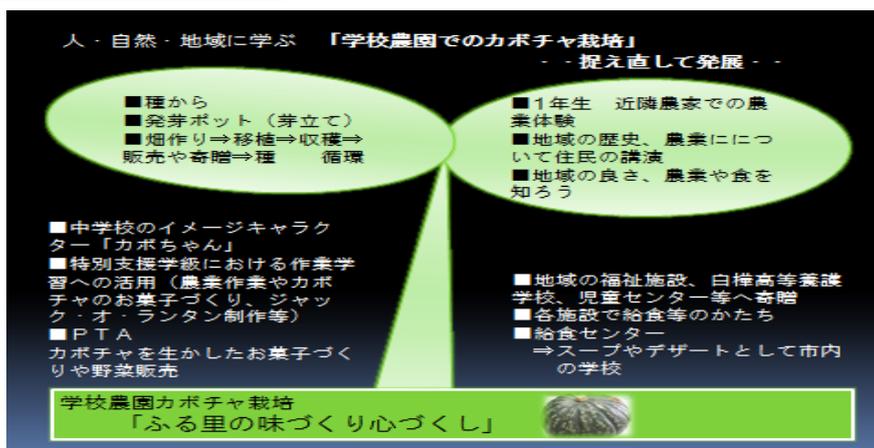
1. はじめに

本校のESD・ユネスコスクールとしての活動は、カボチャの農園活動を軸とした農園活動です。カボチャの種を植え、芽を出させ（芽立て）、教室の発芽ポットで育て、双葉から本葉になったら、農園への移植時期を迎えます。農園作りは、環境委員会生徒やボランティア生徒の力も借りながら、地域の方が、たい肥、肥料、土壌改良材などを入れた畑を、トラクターで耕し、ロータリーで整地してくれます。本校業務主事の農業指導もいただき、畝をつくり、マルチシートを張り、全校生徒で、苗を移植します。水やりや草取りが重要な移植後一ヶ月程度の当番やボランティアを学級ごとに組み、カボチャは農園で花を咲かせ実をつけます。また、特別支援学級では、新たに畑を耕し、ジャガイモや各種野菜を植え、農業実習も継続しています。

2. 地域に根ざした環境教育

全校生徒で収穫したカボチャや特別支援学級の生徒により収穫した野菜は、二次的な利用に取り組んでいます。カボチャは磨いて陰干しし、①販売（PTAバザー販売・市農政部やJAの協力による特別支援学級生徒の全日空オープンゴルフ大会での販売実習・今年度よりユネスコカレンダー市でも販売）②カボチャを使った調理実習やPTAお菓子づくり③寄贈（高等養護学校・児童センター・高齢者や障がい者福祉施設・給食センター）用のカボチャは、生徒会事務局員や環境委員の手により、本校で育てたカボチャとして、近隣の関係機関で喜ばれています。給食センターでは、カボチャを利用したスープやデザートを市内の給食に出してくれます。5年目になるジャガイモづくりは、3種類のジャガイモを収穫、袋詰め、商品としてのパッケージデザイン等を学習し、市の農政部のご協力により、ANA OPENの観戦に訪れた全国のお客さんに「輪厚へようこそ」というメッセージタグとともに販売実習することができ、キャリア教育という視点でも大きな学習素材となっています。

2. 活動・全体計画



3. 活動事例

活動内容	
全学年	<p>人・自然・地域に学ぶ 「ふる里の味づくり心づくし」ESD かぼちゃ農園活動</p>
【ESD】	① 芽立て集会 5月 8日
【環境】	② かぼちゃ園土起こし・整地 5月15日 地域農家の方のご協力
【福祉】	③ 移植集会 6月 5日
	④ 収穫・畑の整地・鶴撤去等 9月11日～
	⑤ ANAOPENでの販売 例年9月中頃（今年度は災害のため中止）
	・学校祭での販売9/29
	・地域施設へ寄贈・市内給食への提供 10/3～ 等 *約300個を収穫
	⑥ リサイクルカレンダー市での販売 1/10 昨年度は雪化粧を1時間で完売

4. 成果と課題

本校は、コミュニティー・スクールとして、地域とともにある学校づくりを、また、ユネスコスクールとして「環境・福祉・人権・平和・国際理解」の取り組みを進めています。「think globally act locally」の精神と自分たちの活動に誇りを持ってもらいたいと、生徒会事務局から生徒会組織を活用し、自校の活動の意味づけを生徒自らに普及啓発してもらえよう工夫しています。ボランティア活動の呼びかけを生徒会事務局や委員会活動からの発信・呼びかけにすることにより、「やらされる」活動から「自主的」活動へ移行していくことが課題です。

1, 2年生全員で取り組んだ除雪奉仕活動や北海道ユネスコ協会のリサイクルカレンダー市へのボランティアスタッフとして毎年30名以上の参加等、地域に根ざした地道な活動を生徒自らが、ユネスコスクールとしての自覚と誇りを持って取り組んでくれるよう活動を展開していきます。